

巻頭言

北海道支部長就任のご挨拶

2013年度 北海道支部長 石本 敬志 (ishimoto@jwa.or.jp)

今年度の支部総会及び全国理事会で承認され、公益社団法人日本雪氷学会北海道支部長を務めることになりました。北海道支部創立50周年を記念し発刊された「雪氷研究の系譜」には、北海道支部創立に関わった広い分野の諸先輩の連携や熱意が溢れています。記念誌発刊から早くも四年過ぎ、雪や氷の結晶というミクロの世界から、地球規模の海洋大循環の駆動力のひとつになっている極地氷床の融解まで空間的大きさも幅広い上、自然科学から雪氷防災、地域や社会との関連まで、雪氷学会が対象とする学問分野も最近ますます幅広くなっています。

関連分野や幅広い方々との連携は、公益社団法人としての定款に掲げられてもいますが、雪氷学会に関わっていただいている皆様が、理念としてだけでなくより深く実感できるような支部活動を目指したいと思います。

支部行事のなかでも支部研究発表会、続いて開催される総会は、会員が直接顔を合わせられる機会ですが、2013年度の北海道支部研究発表会で、2012年度の支部研究発表論文の中から北海道雪氷賞が3名に授与されました。中村一樹氏(北海道大学大学院地球環境科学院)は「氷のラボでの多様な雪氷体験－産官学連携で行った雪と氷の価値化－」のなかで地域や産業との連携例を示しました。伊東敏幸氏(北海道工業大学)は、「2011年度冬期における岩見沢及び三笠の屋根上積雪状態」で、記録的豪雪のもとで屋根にかかる荷重と部材の種類や強度について具体的に論じています。また、尾関俊浩氏(北海道教育大学札幌校)は、「2011－2012年冬期に北海道岩見沢市を中心として発生した大雪」調査チームを組織し、全道の産官学、各機関に属する雪氷研究者・技術者に呼びかけ記録的な大雪実態の組織的調査を主導したことが評価されました。

9月下旬には、稔の秋の真っ最中だった北見で雪氷全国大会が開かれ、全国からの参加者を迎えて北見ならではの全国大会が開かれました。雪氷研究大会ホームページでその概要が見られます。また、2014年「雪氷」76巻1号では、雪氷研究大会を振り返り、次年度の大会に向けた報告が掲載されます。さらに今年度の支部行事として「大沼函館雪と氷の祭典」と協力し「雪氷楽会」を含む地域講演会を準備中で今後も継続できる行事をめざし担当者が努力中です。

雪氷学会北海道支部の運営については、いつでも、どの分野についてでもお気づきの点をお近くの理事か、私までお寄せいただき、お力添えいただけたら幸いです。

手をつなぎ春風に乗り一歩前 雪鬼

春の支部総会の時の一句ですが、もう冬です。

大幅に発刊が遅れ、ご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。

*2013年度雪氷研究大会 HP:<https://sites.google.com/site/jcsir2013/>